

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071201026
法人名	医療法人政裕会 ときつ医院
事業所名	グループホーム多久庵
所在地	福岡県福岡市西区内浜2丁目4-9
自己評価作成日	平成24年2月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年3月1日	評価結果確定日	平成24年4月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体であるときつ医院と連携を密に取りながら、急変や事故等の対応を迅速に行える体制が出来ており、入居者や家族の安心へとつながっている。また、そういった医療的なバックアップは理念にも掲げている「穏やかな死の援助」を実践していくためにも、大切なものである。また、法人内にはグループホーム楽居、デイサービス、高齢者用ケア付きアパートがあり、本人、家族のさまざまな希望に添えるよう、法人全体で取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念の一つとして「穏やかな死の援助」を掲げ、近隣に位置する母体医療法人や同法人事業所との充実した連携を活かして、住み慣れた場所で暮らし続けていくことを支援している事業所である。吹き抜けとなるリビングには天井までガラス窓が配され、放射冷暖房システムの導入等、ゆとりある、快適な生活環境の中で、個別の時間の流れを重視しながら、穏やかな日常となるよう、自然体での支援が印象的であった。長期に入居されている方も多く、医療面での支援体制の充実、本人、家族にとっても大きな安心となっている。また、年2回、多くの家族が参加する食事を開催し、入居者、家族、職員のつながりを深めている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自立した人生の確立」「選択の自由と機会」「個人の尊重」「プライバシーの保護」「穏やかな死の援助」という理念の元、日頃よりケアを行っている	近隣に位置する母体医療法人や同法人事業所との密な連携を活かしながら、住み慣れた環境の中での暮らしの継続に向けた、明確な方向性を理念として掲げている。ゆとりある生活空間と穏やかな個別の時間の流れの中で、長期に入居されている方も多い。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の定例会等への出席や町内の夜間パトロール、防災訓練への参加等を通じて交流を図っている。	法人全体で自治会に加入し、定例会への出席や夜間パトロール、防災訓練への参加、公園の花の手入れ等を通じて、地域との関係作りが行われている。また、中学校の職場体験学習を受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会などの参加により、地域の方に認知症を理解して頂ける様に努めている。また、法人内にはときつ医院による訪問看護、往診、デイサービスもあるので法人全体で、地域の高齢者へ支援をしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況の報告を行い、ご家族などのご意見をケアに活かしている	近隣の同法人グループホーム「楽居」と合同で、母体法人施設にて定期開催されている。家族、自治会長、副会長、地域包括支援センター職員等のメンバー構成により、状況報告や災害対策について話し合いを行っている。半年に1回は食事会をかねており、多くの家族の参加を得ている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている地域包括支援センターと連絡は密に取っており、事業所の実情の報告、相談など行っている。	運営推進会議や、いきいきセンターふくおかでの研修参加を通じて、地域包括支援センターとの連携を図っている。また、電話やメール等も含め、行政担当者やケースワーカーへの報告や情報交換を行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	赤外線センサーの利用などにより、身体拘束しないケアを目指している。どうしても必要な場合は、ご家族へ説明し、同意のもと行っている。	法人として、身体拘束廃止委員会を設置している。入居時に、家族にも身体拘束による弊害やリスクを説明し、事業所として身体拘束をしないケアに取り組むことを説明している。スタッフ会議やカンファレンスにおいて、言葉による抑制や薬の副作用等についても共有認識を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、虐待が起きないように、また見過ごされる事が無いよう努めている。		

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は権利擁護の研修の開催、外部研修への参加が出来ていない。しかし、権利擁護事業や成年後見制度についてのパンフレットを配置しており、家族などからの相談に対応しやすいようにしている。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、母体法人との連携や司法書士によるアドバイスも受けながら支援を行っている。パンフレットを常備し、情報提供が行える体制にある。	法人として対応できる体制にあるが、権利擁護に関する制度の意義や理念について、職員個々の理解を深めていくためにも、研修の機会の確保に継続して取り組まれることを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約時には、話し合いを行い、不安感などを取り除ける様努めている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時や運営推進会議などで、ご意見ご要望をお聞きするようにしている。また、外部及び当ホームの苦情相談窓口をリビングへ掲示し、重要事項説明書にも記載している。	半年に1回、食事会を兼ねた運営推進会議を開催しており、全家族の参加を得ている。また、家族の来訪の機会も多く、意見を表出しやすい関係作りに努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等により職員の意見や提案を聴く機会を設け、必要に応じて法人全体の各部署のリーダーミーティングにて話し合うようしている。	毎日のミーティングや、3ヶ月に1回の法人全体の話し合いを通じて、職員意見の反映に努めている。夜勤体制は実質2名体制となり、職員の採用等について職員意見が反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や給与水準は労基法に順守し、保険年金等の福利厚生、賞与や表彰(永年勤続など)を設けている。また、代表者は日常の中で職員の生活状況や悩み、職員間のコミュニケーション等の把握に努め、個別で話を聞く機会をなるべく設けている。外部研修や内部勉強会、グループホーム内の企画行事など職員が自主的に行われており、これらに対して支援を行っている。さらに、診療所併設という利点を活かした職員への細やかな健康状態の把握及び迅速的な医療的サポートを行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、2名の代表者等による協議によって理念への共感や適性等を重視し、性別、年齢などの差別が無いように配慮している。また、資格取得を奨励しており、介護福祉士、介護支援専門員等の取得者を輩出している。	法人としての採用となり、年齢や性別による排除は行わないようにしている。有給休暇や産休、育休の取得、職場復帰への配慮等、権利の保障や働きやすさへの配慮が行われている。また、外部研修参加時のサポート等、職員の資質の向上を支援している。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員に対して入居者の人権を尊重させる教育の一環として、入居者の生活歴等を理解することで、尊敬、共感できるように心がけさせている。行政等主催の人権研修等の開催情報の提供を行い、参加を促している。	行政や「いきいきセンターふくおか」が主催する研修案内を行い、職員の参加を促している。運営推進会議の中で、地域包括支援センター職員(社会福祉士)による、人権学習を予定している。	

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	パート職員を含む全職員を対象とした法人内勉強会を毎月開催している。また、外部研修などに積極的に参加できるように、参加費等の負担免除を行っている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会、研修に参加することで、他のグループホームとの交流を図っている。また、地域包括支援センターとの情報交換や連携を図ることで、サービスに質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中から、今何を求め、何が大切か、苦しんでいる事、困っている事は何かを耳を傾け、観察しながらスタッフが本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族同士の中でもそれぞれ思いの違いもあるので、それも含めて家族などの話をしっかり聴き、不安や要望などを受け止め関係づくりに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には運営母体であるときつ医院へ入院される事が多い。なので、入居前にときつ医院の看護師から情報を収集している。また、直接本人や家族とお会いし「その時」必要なケアを見極め、本人に合ったケアに努めている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜び等の感情を受容し、共感することで暮らしを共にする者同士の関係づくりに努め、また、本来の個性や力が発揮してもらえるように工夫、声掛けにも配慮している。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の出来事や気付きの情報を伝え、問題点等に関して協力してもらえることは協力してもらい、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から交流がある知人、友人等が気軽に会いに来られる雰囲気づくりに努め、継続的な交流が出来るよう働きかけている。	希望があれば、行きつけの美容室の利用を支援している。また、希望により、以前通っていたデイケア事業所の利用も支援している。年2回、家族との食事会を開催する等、家族との関係性を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性の把握に努め、基本的な席を決めている。また、その時の状況によっては、席を替え、より関わりあえるように配慮している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人内への転居が多い為、契約終了後も必要に応じてフォローなど行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成の際本人や家族の希望、意向を聴いている。また、日頃のケアの中でも言葉や表情、態度等から本人の意思の確認に努めている。	生活暦やライフスタイル等についての情報収集を行い、思いや意向の把握や、本人本位の支援へとつなげている。生活情報シートは計画の期間にあわせて更新され、職員間での共有に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人自身や、家族、入居前のサービス担当者等から話を聴くなど把握に努めている。また、以前より使用している家具や日用品などをなるべく置くようにし、なじみの生活環境に近づけるようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に、利用者を観察し状態の把握に努め、毎日の申し送りやミーティング、ケースカンファ等で、情報を共有しケアにあたっている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等によりご本人の課題などについて話し合っている。また、3カ月ごとにモニタリングを行い現状に即したものが検討をしている。	本人、家族の意向を踏まえ、ミーティングやケースカンファレンス等で情報を収集し、介護計画を作成している。個別の外出や家族の役割、地域資源の活用等についても計画の中に位置付け、ミーティングや3ヶ月毎のモニタリングを通じて、現状の確認と見直しの必要性を検討している。	自立支援や関係性の継続に向けた視点が盛り込まれた、個別、具体的な介護計画が作成されています。穏やかな時間の流れの中で、職員個々が計画に基づいた支援を意識できるよう、共有や実践に向けた取り組みに期待します。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を記入し、職員間で情報の共有を行い、ミーティング等で話し合い介護計画書の見直しなどに活かしている。		

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人内にはデイサービス、高齢者用ケア付きアパート等があり、それらの協力を得ながら、本人、家族の希望に添える様に取り組んでいる。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署職員の監督指導の元、避難訓練を行ったり、防災センター職員による、AEDの使用方法や人工呼吸、心臓マッサージ等の緊急時の対応の講習をして頂いたり、行事など際には音楽セラピーの先生に演奏してもらい、入居者皆さんで歌を唄ったりしている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居と同時に、協力医療機関であり、運営法人であるときつ医院の医師が主治医となるケースがほとんどである。そのときつ医院とは密に連携を取っている為、入居者の心身状況の把握が出来ており適切な医療の提供がなされている。また、本人、家族の希望にもなるべく添えるようにしている。	かかりつけ医については、入居時に、本人、家族の意向を確認している。近隣の母体医療機関との密な連携を活かして、馴染みの関係の中での医療支援が行われている。歯科、眼科、皮膚科、循環器科等の往診体制が整備されている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	最低でも1日2回ときつ医院看護職へ報告、相談等を行っている。また、急変や事故、熱発などあれば、随時連絡を取れる体制づくりが出来ており、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の心身状況を理解してもらうため、利用者が入院する際にはフェイスシートを病院へ提出している。また、入院中や退院時、看護師やソーシャルワーカーと情報交換を行い、スムーズに退院できるように努めている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より「穏やかな死の援助」という当ホームの理念の元、本人、家族、主治医、介護職員等との話し合いにより、終末期の方針を共有している。また、状態の変化、悪化時などで、家族等の希望があればホスピス等の紹介も行っている。	理念の一つとして「穏やかな死の援助」を掲げ、入居時に、重度化や終末期への対応について説明を行っている。状態の変化にともない、本人、家族の意向確認や、医師を交えた話し合いを重ね、方針を共有している。近隣に母体となる医療法人が位置し、法人全体の連携を活かしながら支援を行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体の勉強会にて、看護師による急変時の対応や防災センターへの研修の参加等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い避難経路誘導方法の確認を行っている。また、町内の防災訓練への参加や運営推進会議の際、自治会長、民生委員の方々に災害時等のご協力をお願いしている。	年2回、併設する高齢者住宅との合同にて、昼夜を想定した避難訓練を行っている。また、職員は地域の防災訓練にも参加している。近隣の同法人施設との日常的な連携があり、兼務している職員も多いため、連携を図りやすい。運営推進会議では、地域より災害についての情報提供も行われている。	
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の事を考えた声かけ対応を行い、不快に感じないように注意している。更衣時や排せつ介助時には、扉を閉めて行う。	個別の時間の流れや、自己決定の場面を意識しながら支援を行っている。理念として、「選択の自由と機会」「個人の尊重」「プライバシーの保護」を掲げ、ミーティング等にて共有認識を図っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心がけると共に、本人の言葉だけでなく表情や態度からも、思いや希望を汲み取れるように努めている。また、本人の理解力に合わせて、複数の中からの選択、二択からの選択等により自己決定できるように支援している。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天気の良い日にはお散歩に行ったり、ご本人より買い物の希望があれば、近くのコンビニまで一緒に行ったりして過ごして頂いている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回訪問理美容があり、希望に応じてカット、カラー等行っている。また、更衣、整容時に声かけ傾聴を行い、本人の意思に沿った支援に努めている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備などは外部業者へ委託している為、一緒に食事を作る機会はほとんどないが、テーブル拭きなどは協力して頂いている。また、年に2回ほどご家族を招いての食事を開催しており、家族と共に食事を楽しめる機会を作っている。	調理は外部委託されており、個別に応じた食事形状への配慮や、病状に応じた食事管理にも対応可能となっている。時には弁当を作って外出したり、茶話会ではお寿司を用意する等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時、15時、19時に定期的に水分補給を行い、それ以外でも尿量等によって、水分を摂取して頂いている。栄養バランスについては栄養士作成による献立があり栄養バランスの良い食事となっている。食事形態は、ご飯、お粥、キザミ、ミキサー、軟菜等、入居者一人一人の力、状態に合わせている。		

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人一人に合わせて、歯ブラシだけではなく、歯間ブラシ、タフトブラシ、口腔スポンジなどを使用して、清潔を保っている。また、週に一度、歯科往診等により歯科医師、歯科衛生士に口腔ケアのアドバイスや指導をもらっている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	基本的に昼間はトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。また、排泄パターン把握に努め、スタッフ間で情報を共有し、トイレ誘導を行っている。	排泄状況をチェックし、個別のパターンや間隔の把握に努めている。介護計画の中にも具体的に位置付けながら、トイレ誘導や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり取ってもらえるように努めている。それでも便秘な入居者には主治医の指示の元、入居者個別に下剤の服用や座薬の使用を行っている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の心身状況に合わせて、その日入浴して頂く入居者を決めている。それ以外で、入浴の希望をされれば、なるべく希望に添えるように対応している。また、浴室にはリフトを設置している為、歩行困難な入居者も浴槽に入りやすくなっている。	毎日入浴準備を行い、希望や状況に柔軟に対応している。入浴リフトが備えられており、重度の方でもお湯に浸かれるよう配慮されている。入浴剤やシャンプーの使用についても、個別の希望に対応している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就床時間は特に設けておらず、日中から状況やその時の様子、本人の意思により就床して頂いている。昼間でも、きつそうな様子、眠そうな様子の入居者にはベッドに休んで頂くようにしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬情報を元に、服用している薬の効能、副作用について理解をし、服薬に伴う心身状況の把握に努め、何かあれば、主治医に相談報告を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者やその日ごとに、歌を唄ったり、散歩に出掛けたり、買い物に出掛けたりなど支援している。		

福岡県 グループホーム 多久庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節や天候により散歩の機会を作っている。また入居者の希望により、買い物など外出できるよう支援を行っている。家族の方とも周辺を散歩に行かれたり、外出に行かれたりしている。</p>	<p>近隣に位置する母体法人施設や公園まで、散歩がてら出掛けている。コンビニエンスストアでの買い物等は、介護計画の中にも位置付け、支援を行っている。博多どんたくや山笠には、基本的に入居者全員で参加している。</p>	
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自分で管理できる入居者は少額のお金を持っており、希望により、一緒に買い物に行き、自分で支払いなど行えるように支援している。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人の希望により電話の使用やお手紙の代読や代筆を行っている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>吹き抜けになっているリビングは明るく、開放的である。また、直接、日が当たる場合はカーテンを使用し、調整している。玄関などには季節感を感じられる飾り物などをしている。</p>	<p>2階部分に併設される高齢者住宅まで吹き抜けとなっており、天井までガラス窓が配され、明るく、開放的な共用空間となっている。また、バリアフリーでポーチへとつながり、夏季にはグリーンカーテンが施される。各所にソファや椅子が配置され、和室には掘り炬燵が設けられている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>その時々で席の配置を替え、テレビを見たり、歌を唄ったりして過ごされている。また、リビング内には、ソファや掘りごたつ付きの和室があり、状況に応じて使用している。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なるべく議事宅で使用していた物(筆筒、布団、小物等)を持ってきて頂いたり、写真等を飾り居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>	<p>各居室入り口には洗面台や物入れが設けられ、トイレ付の居室も用意されている。歴史を重ねた趣きある大きな筆筒やテレビ等が持ち込まれている部屋もあり、生活感ある居室が多い。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリー構造となっており、車椅子での移動がスムーズに行えるようになっている。また、各所に手すりを設置しており、歩行時、立位時等に活かしている。お部屋の入口には表札を張っており、誰のお部屋が分かりやすいようにしている。</p>		